

日本材料学会・土質安定材料委員会編

斜面安定工法（指針と解説）

斜面の安定問題は、一般に対象とする地形・自然環境が複雑多様であり、設計施工において非常にむずかしい問題を含んでいる。しかしながら、土木工事においては、斜面安定問題に遭遇するケースが多く、この種の工事に従事した技術者は合理的設計施工に苦慮してきている。

本書は、こうした技術者に指針を与えるべく書かれたものであり、示方書の解説形式に準じて編集されており非常に読みやすくできている。

本書の内容は7章からなっている。

第1章は、総説で斜面安定工法の意義と用語の記述である。

第2章は、斜面崩壊の原因と機構についてであり、一般的記述のほかに、雨や地震による崩壊例や斜面崩壊の予知についても述べている。

第3章は、斜面の調査についてであり、設計・施工および施工後の各段階における調査方法について述べている。

第4章は、斜面の計画・設計・施工についての記述であり、計画設計のプロセス、斜面の安定計算法、斜面の景観的处理等について記されているが、計算例の記載があれば、もっと利用価値があがると思われる。

第5章は、斜面安定工法についてであり、植生、被覆、モルタルコンクリート、コンクリートブロック、格子柵、柵工、排水、その他の特殊工、各工法の特長、設計・施工、今後の問題点について記されている。この章は本書のうちでもっともページ数をさいており、力を入れている。とくに植生についてかなり詳しく述べている。

第6章は、斜面工法の諸基準の章で、各官庁等の土質によるのり面高さ勾配および植生工、保護工の基準が一覧表にしてあり、設計の際の参考として便利のようにまとめている。

本書は、日本材料学会の土質安定材料委員会の編集になるもので、土木分野のみならず、化学等の分野の技術者が集まって書かれたものであり、それなりの特徴をもった本になっている。ただ、内容的に十分な箇所、不十分な箇所がみられ、アンバランスな感じを受けるのは残念である。ともあれ本書は、現に斜面安定工法にたずさわっている人、またこれから新たに勉強しようとする人達への指導書・参考書として良くまとまっており、一読をおすすめしたい。

[MI]

鹿島出版会刊、A5判・346ページ、定価1900円

山本崇史 編著

海外工事契約の手引

日本の建設業は近時めざましい発展をとげ、国民総生産の14~15%にも及ぶ重要産業となってきた。一方、海外工事に目を転ずれば、国内工事实績のわずか1%程度であり、他の先進国に比して低調といわざるを得ない。しかしながら、海外工事絶対量の増加、資本自由化への抵抗力、国内における競争激化等の要因があり、いまや海外工事へ積極的に進出しなければならない時期にさしかかっている。

一方、従来海外工事に進出した日本の建設業者の多くが必ずしも順調ではなかった。

その原因も種々あげられているが、契約関係の問題が大きな要素であることにかんがみ、本書はその契約業務運用の手引として書かれたものである。

本書の内容は、

第1章 「海外工事進出のために」

第2章 「工事契約の種類と手続」

第3章 「契約書とその運用」

第4章 「海外工事における問題点と対策」

付録 参考資料「FIDIC 建設工事契約条件」(一般条件全訳)

第1章では、海外進出をめざす建設関係者が知っておくべき基本事項の概説であり、世界の動向、日本の現状等について述べている。

第2、3章は、契約書の構成とその運用に関する解説であり、契約書の種類・手順・重要性・クレーム等について実務的に述べている。

第4章は、わが国建設業の海外進出への提言である。付録は FIDIC (FEDERATION INTERNATIONALE DES INGENIEURS CONSEILS 国際コンサルティング連合) の一般条件の英文、および解説つき訳文である。本書は数少ない海外工事の契約についての解説書であり、その点でも特筆すべきである。また、内容的には海外工事に進出を志す人達の参考書・マニュアル・チェックリストとして、実務的な本でもある。とくに付録にある FIDIC の一般条件をじっくり読み理解しておけば、訓練ともなり非常に有益であろう。

海外工事全体に対する姿勢もプロジェクトの発掘から始めて資金の獲得、技術の向上と、技術者のあるべき姿まで方向づけができており、大いに参考となるものと思われる。

[MI]

日刊工業新聞社刊、A5判・229ページ、定価1500円